

原 強 プ 第 5 8 号
平成 2 3 年 3 月 1 0 日

島 根 県 知 事 溝 口 善 兵 衛 様

中国電力株式会社
取締役副社長
原子力強化プロジェクト長
苅 田 知 英

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成 2 3 年 2 月 2 7 日に開催された，第 4 回原子力安全文化有識者会議の議事概要
について，平成 2 2 年 3 月 3 0 日付け消防第 2 7 3 8 号および平成 2 2 年 1 0 月 1 9
日付け消防第 1 0 5 4 号の申し入れに基づき，添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第 4 回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

以上

第4回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

- 開催日時 平成23年2月27日(日) 13時55分～16時45分
- 開催場所 ホテル白鳥(島根県松江市千鳥町20)
- 出席者 [地元委員] 浅沼委員, 石原委員, 曾我部委員, 前田委員, 三好委員
 - ※ 亀城委員は欠席[一般委員] 宇於崎委員, 首藤委員, 中谷内委員, 樋口委員
 - ※ 増田委員は欠席[社内委員] 苅田原子力強化プロジェクト長, 松井副社長, 清水常務

○ 議事概要

1. 開催挨拶

苅田原子力強化プロジェクト長から、島根2号機が国の検査を終えて12月28日に通常の運転を再開したこと、1号機は1月6日に点検超過機器の点検を終了し、機器の健全性に問題ないことを確認するとともに、国による特別な保安検査で運転再開にあたって安全上の問題はないと判断を受けたこと、3号機の制御棒駆動機構の一部動作不良を受けて安全確保に万全を期する観点から工程を変更したことを説明するとともに、本日の会議では、安全文化醸成活動のこれまでの取り組みの評価とH23年度の計画を中心に、忌憚のない意見や提言をいただくようお願いした。

2. 出席委員の確認

事務局より資料1に基づき参加委員の確認および亀城委員、増田委員の欠席を案内した。

3. 議事

資料2に基づき、迫谷原子力強化プロジェクト専任部長から議題1(再発防止対策の進捗状況について)を、岡田原子力強化プロジェクト部長から議題2(点検不備問題に係る安全文化醸成施策の有効性評価および次年度計画について)および議題3(第2回、第3回有識者会議意見を踏まえた情報発信の見直し状況について)を説明した。

主な意見は、以下のとおり。

(1) 議題1「再発防止対策の実施状況」について

- ・発電所員から出た意見に対する対応はスピードが重要であるが、「検討する」「検討する必要がある」という言葉になっているように、問題の抽出にばかり力点が置かれ、解決に力が向かないという方向に陥りがち。「検討期間を短くすること」をルール化するような取り組みが必要。
- ・1つの課題を複数の箇所で検討することが、すべて悪いわけではなく、複数の箇所で検証することにより新たな知見が得られるという側面もある。
- ・体制を作ったから大丈夫というのではなく、柔らかな、たおやかな社風で様々な情報が的確に伝わり、判断出来るような会社になってもらいたい。

- ・多くのワーキングを作ることは、会議の準備が大変であり、効率性に問題がある。シンプルな形にして取り組むことが大切。
- ・多くの課題を処理するにあたっては、複数のワーキングを作るなど分業化を図ることは効率的であるが、その連携をしっかりとることが重要。組織にはある程度の冗長度が必要であるが、逆に冗長度が大きくなりすぎると、「他で対応しているはず」との思い込みから漏れが生じてしまう。責任と権限を明確にすることと、相互の連絡をきちんとすることが大切。

(2) 議題2「点検不備問題に係る安全文化醸成施策の有効性評価および次年度計画」について

- ・中国電力の組織文化は、しっかりしておりそれなりに高く評価している。「組織文化」の改革には5年、10年かかる。だからこそ「文化」と呼ぶ。アンケートの評価にあたっては、肯定意見よりもネガティブな内容にヒントがあるのではないかと見るのが大切。
- ・アンケートの質問内容については、一人ひとりの職業倫理や安全確保に対する内発的な変化を問いかける質問も必要。この場合、一般的な質問ではなく、具体的な業務内容、状況を明確にした形での問いかけをして、組織の問題なのか、個人の問題なのかの判断を含めて、具体的な問題点が分かるような工夫が必要。
- ・評価に用いているアンケート結果には、「意見の吸い上げ」、「コミュニケーション」など改善すべきポイントが素直に出てきている点は評価できる。
- ・職業倫理を高めていくためには、人事考課と連携させる仕組みを作っていくことも大切ではないか。
- ・意識を意識としてのみ調査するとアンケートしか評価方法はないが、意識改革の結果として影響が出てくる外形的要素も重要。例えば業務改善提案の件数で測るのも一つ。
- ・昨年12月3日に実施された発電所見学の際に、点検不備問題について社員から「悔しい」「残念だ」「今回のことは申し訳ない。今後は反省し、頑張っていきたい。」などの声を直接聞くことができた。このような良い社員がたくさんいることを誇りに思ってもらいたい。
- ・1号機のひびの件は、技術的に対応すれば問題ないものだが、稼動前とはいえ、3号機の制御棒駆動機構の不具合は、安全文化醸成面で更なる努力が必要と受け止めるべきではないか。技術者は、技術を持って応えることが信頼回復の第一歩である。

(3) 議題3「第2回、第3回有識者会議意見を踏まえた情報発信の見直し状況」について

- ・中国電力の情報発信の改善は進みつつある。特に本日(2/27)の新聞広告(山陰中央新報10面)は分かりやすいモデルの一つ。また、原子力の事象では何か起きた時に安全性に問題あるのかないのか住民の知りたいところであり、その一言がまず必要。より分かりや

すくするためには、一般消費者向けのビジネスで成功している企業のホームページなどを参考にするが良い。

- ・ 電力会社は電気を安定的に供給するのが原点だとすれば、例えば「島根原子力発電所2号機は安定的に運転中」がホームページのトップ画面にあるなど情報の絞込みも大切。また、原子力の専門家の評価を入れて、住民が安心を感じられるような説明を工夫されたい。
- ・ 他の電力会社も同様な感じだが、ホームページが単なる情報の羅列になっており、「誰のために」「何のために」ということが明確ではない。そこを意識した住民目線での作りをお願いしたい。
- ・ 情報発信の表現方法については、色々な意見がある。本日の意見の中には対立する意見もあるので、これらの意見を参考として、より良いものに改善されたら良いと思う。

4. 閉会あいさつ

菟田原子力強化プロジェクト長より、積極的な意見・提言へ感謝の意を述べるとともに、安全文化醸成に係る平成23年度活動計画について、継続性の観点も重要であり、いただいた意見を踏まえながら、本計画を基本に進めていくことで各委員の了解を得た。

以上